

スピーチ学習のねらい

スピーチ学習のねらい

- 自分の考えをもち（自分の考えをもてるように）論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力を育成する。
- 一方的に意見を述べたり、表現したりすることではなく、よりよく問題を解決できるような「伝え合う力」として育成する。

指導の重点

- 自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりすること。
- 自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい話題を選び出すこと。

学習単元としてスピーチを設定した理由

- 中学校で初めての「話すこと・聞くこと」の学習であり、小学校ですでに経験済みで取り組みやすい活動であること。
- 生徒たちにとって、改まった音声言語活動の中の意思伝達方法として、最も身近な活動であること。
- ディベートやパネル・ディスカッション等、今後話合いや討論に発展していくための基礎・基本となる活動であること。

トライアングルスピーチを取り入れる理由

- 話し手、聞き手、アドバイザーという役割と、その学習が効率よく行えること。
- スピーチに対する抵抗を減らし、スピーチそのものの学習に集中できること。
- 共感的雰囲気をつくりやすいこと。
- スピーチ後の質問・意見を出しながらのやりとりがスムーズにできること。

スピーチ学習の経験度

スピーチは生徒にとって身近な活動であり、その必要性の高さから、すでに小学校段階で経験済みの生徒が多い学習活動です。そこで、今までにどのような学習をしてきているのかについて調査をしました。

- ほぼ全員の生徒がスピーチを経験済みである。
- 国語の時間ではなく、学級活動の時間に学習してきている。
- 下書きを書いて、それを読む形のスピーチを経験している生徒が約1/3、あとは持ち時間が指定されているもののスピーチまでの特別な指導は受けていない。
- スピーチの仕方については、ゆっくり大きな声で話し、黙って聞く程度の大まかな指導である。